

4段階評価	4・・・ 達成（期待以上） 2・・・ 不十分（やや期待を下回る）	3・・・ ほぼ達成（ほぼ期待どおり） 1・・・ 改善を要する（期待を下回る）
-------	---------------------------------------	---

評価項目	方策・手立て	評価			結果の考察・分析及び改善策等	
		児童	保護者	職員		
学力の向上	分かる・できるを実感できる授業実践	望ましい学習習慣の育成と指導方法の工夫改善に努め、学力の向上を図る。	3.49	3.18	3.30	本校では一昨年度から『主体的・対話的に学び、学力を高める児童の育成～「ICT 機器タブレット」を活用した授業改善』を研究主題として各教員が日々授業改善に取り組んでおり、ICT 機器を活用した授業は特別な事ではなくになっている。学力テストの結果をみると県平均をやや上回る結果となっており、全体的に学力は身についていると言える。活用問題に取り組ませたり、習熟や個別指導の充実が図られたりしている結果だと思われる。ただし、学力の個人差は大きくなっている二極化が進んでいる。学力差の原因には、理解力だけでなく意欲や集中力の差も感じられ、今後はユニバーサル教育の観点から個に応じた指導の在り方の更なる改善にも努めていく必要がある。
	学びの確かめの充実	活用問題に積極的に取り組ませ、習熟や個別指導の充実を図る。〔自ら学ぶ力〕	3.44	3.22	3.15	読書量は1月末現在での全校合計19000冊を超えており、昨年度同時期と比較して大きく増えている。図書司書との連携や、定期的な市図書館の学級文庫の入れ替え等の取組により、読書への関心が高まってきていると思われる。
	読書に親しむ習慣の育成	学校図書館司書等を積極的に活用し、読書環境の充実を図る。〔他者から学ぶ力〕	3.44	3.18	3.07	
	作品作りを通した表現力の育成	作品掲示等を通して、表現力や豊かな感性の向上を図る。〔自然から学ぶ力〕	3.30	3.17	3.14	
豊かな心の育成	寄り添った指導の充実	実態把握や諸調査を通して温かな言葉かけや指導に努める。〔他者から学ぶ力〕	3.60	3.06	3.21	児童アンケートによるいじめ訴えは、全体として少ない状況にある。これまでの巡回相談員に加え、本年度から配置されたスクールカウンセラーによる相談体制も、児童の心的不調の早期発見や早期対応の取組に功を奏している。
	生活指導の工夫	「あいさつ・会釈」「無言の場」「1分前着席・立腰」等に関する指導の徹底と質の向上に努める。	3.41	3.06	3.21	不登校や登校しづらいう児童はいるものの、生徒指導主事を中心にしてその対応にあたっている。また、外部機関との連携を図りながら継続して支援を行い、不登校児童が増えることを防いでいる。
	危機回避能力の育成	交通安全、避難訓練、情報モラル、非行防止の指導等の充実を図る。〔社会から学ぶ力〕	3.75	3.29	3.32	基本的生活習慣については、「あいさつ・会釈」はできていると感じるが「無言の場」には課題がある。今後も指導の徹底を図っていく必要がある。
	自主的・自発的に活動する児童の育成	特別活動やボランティア活動等を通して、何事にも前向きで主体的に取り組む態度の高揚を図る。〔社会から学ぶ力〕	3.56	3.07	3.25	本年度は地震や大雨など自然災害に見舞われた1年であったが、10月の大雪による保護者引渡では日頃の訓練の成果が發揮された。今後も訓練の更なる充実を図っていく。
たくましい体づくり	健康診断後の指導の充実	検診結果をふまえた保健指導を推進し、肥満指導や治療率の向上を図り、健康意識の向上を図る。	3.64	3.30	3.21	健康意識については、児童・保護者ともに昨年と同程度の数値となっているが、むし歯治療率は現在36%程度に留まっており昨年度よりも低い結果となった。家庭への啓発は昨年度以上に行っているが、成果が上がっていない状況にある。
	健康安全教育の充実	「早寝・早起き・朝ご飯」の実践や学校保健委員会の実施、保健だよりの発行を通して、健康安全意識の向上を図る。	3.41	3.19	3.37	生活習慣に関しても、昨年度と同程度の数値となっているが、メディアコントロールができていない児童が増えてきている印象がある。スマートフォンやタブレット、ゲーム機器などの利用により生活習慣が乱れ、中には依存的な児童もいる。学校では情報モラル教育の中で正しい使い方を指導するとともに、保護者への啓発を行い、継続して更なる意識向上に努めていく。
	体力向上プランの推進	運動会、持久走大会や縄跳び大会等、目標となる取組を設定し、運動意欲の向上を図る。	3.50	3.12	3.26	学力とともに体力も二極化が進んできていると感じる。今後3学期に計画されている持久走や縄跳びなどの活動を充実させ、児童の体力向上を図っていく。
	食に関する指導の推進	弁当日の日の取組や給食指導を核として、「食」に関する指導の充実を図る。	3.65	3.26	3.36	給食指導の充実を図ることができているが、アレルギー対応での課題も残った。体制づくりを行い、絶対に事故が起きないように気を付けていく。
家庭・地域との連携	家庭や地域への情報発信の充実	学校だよりの発行やホームページの内容を常に更新させ、学校の情報発信に努める。	3.39	3.24	3.43	学校だよりや学校ホームページを通じて、必要な情報の発信はできた。また、本年度から紙媒体によるプリント配布をほぼ取りやめ、電子メールを活用した電子媒体での配布を行っている。保護者からは特に苦情もなく概ね好意的に好評であった。学校としては、印刷などにかかる時間、紙の使用枚数を減らすことによる資源と予算の節約、保護者にとっても確実に情報が届くこと、受け取った情報をいつでも見直すことが出来ること、といった学校と保護者双方にメリットがあると言え、今後もネットワーク活用の充実を図っていく。
	情報モラルの育成	情報モラルに関する授業やメディアコントロールの大切さについて、親子で意識を高める機会の充実に努める。〔自ら学ぶ力〕	3.56	3.12	3.33	※情報モラルについては前述
	家庭との連携の充実	学校と保護者が密に連携し、課題について実態を共有し、解決に向かって寄り添うことに努める。	3.40	3.01	3.29	授業参観および学級懇談の出席率は概ね良好であった。また、地域学校協働活動推進員との連携が図られ、地域人材を活用した様々な活動を行うことができた。
	地域との連携の充実	地域学校協働活動推進員の積極的な活用により、ふるさとを愛する教育活動の充実に努める。	3.38	3.03	3.08	

学校運営協議会委員（藤井秀雄 委員 別府信一 委員 佐藤智文 委員 四月一日美代香 委員）のご意見等

- ・他校では読書量が減っていると聞く中で、読書量が増えているとは素晴らしい。読書には、読解力の向上だけでなく、創造力や集中力の漢字力の向上といった様々なメリットもある。それらのメリットを伝えて、更なる読書の量と質の向上を目指していってほしい。
 - ・日南市でもタブレットを利用したデジタル版ドリルの使用がスタートしたと聞く。先生方で効果的な活用方法を研究してこども達の学力向上に生かしてほしい。
 - ・不登校や登校しぶりへの熱心な対応は本当にありがたいと思う。民生児童委員との訪問などを通して地域としても家庭を支えていきたい。
 - ・スマートフォンやゲーム機による生活習慣の乱れや友達間のトラブルといった問題だけでなく、近年ではスマートフォンを入口として犯罪の被害者にも加害者にもなる事案が多発している。スマートフォンなどの機器利用の最終的な責任は保護者にある。学校は保護者への啓発活動をさらに行ってほしい。
 - ・吾田東小は、先生方の働き方改革が進んでいると聞く。先生方の働きやすさ、働き甲斐は、授業や学校活動全般を通して結果的にこども達の満足感につながっていく。また、日南市の学校は働きやすく働き甲斐があるという話が広がれば、他地区から日南赴任を希望する優秀な先生方が増えよりよい学校がえることになる。それは保護者にとっても子育てしやすいことにつながり、延いては日南全体の発展にもつながる。学校の働き方改革を保護者も前向きに捉えられるようにしてほしい。